

製品名: PCY1A ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15870**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	PCYT1A CTPCT PCYT1
別名	
遺伝子 ID	5130.0
SwissProt ID	P49585
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

背景

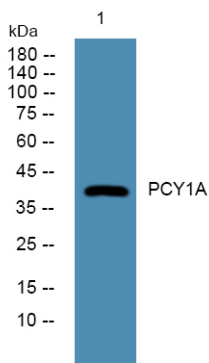
この遺伝子はシチジルトランスフェラーゼファミリーに属し、ホスファチジルコリン生合成の調節に関与する。この遺伝子の変異は、円錐桿体ジストロフィーを伴う脊椎骨幹端異形成症と関連している。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリ

アントが見つかっている。[RefSeq 提供、2015年8月],触媒活性: CTP + コリンリン酸 = ニリン酸 + CDP-コリン。酵素調節: リン酸化による。機能: ホスファチジルコリン合成を制御する。経路: リン脂質代謝; ホスファチジルコリン生成; ホスホコリンからホスファチジルコリン: ステップ 1/2。PTM: C末端のセリン残基がリン酸化される。不活性な可溶性形態はリン酸化によって安定化され、活性な膜結合型は陰イオン性脂質またはジアシルグリセロールによって促進され、脱リン酸化によって安定化される。類似性: シチジルトランスフェラーゼファミリーに属する。細胞内局在: 不活性な細胞質型と活性な膜結合型との間で相互変換できる。サブユニット: ホモ二量体; ジスルフィド結合。,

研究分野

グリセロリン脂質代謝;

画像データ



A431 細胞溶解液のウェスタンブロット分析、PCY1A ウサギポリクローナル抗体を1:1000に希釈し、4°で一晩